

北海道医療大学学術リポジトリ

睡眠時無呼吸症候群

著者名(日)	川上 義和
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	18
号	1
ページ	225
発行年	1999-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008398/

〔特別講演〕

「睡眠時無呼吸症候群」

北海道大学医学部第一内科

川 上 義 和

睡眠中に呼吸が一時的に停止する病態があることが知られるようになったのは、比較的最近のことである。夜に観察されるこの病態が昼間の日常生活や社会活動に影響を及ぼすばかりでなく、高血圧などの疾患にも深く関わっていることが次第に明かになってきた。また、肥満を基礎に発症することが多いので、いわゆる生活習慣病として捉えることもある。

日常生活や社会活動に対する影響で重要なことは、本症候群が原因で仕事の上での「窓際族」になったり、「ダメ人間」のレッテルを貼られたり、自動車事故やニアミスを起こしたりすることであろう。本症候群は治療によって完治することから考えると、これら日常生活や社会活動における支障を改善する余地があるのに、

見過ごされた結果、人の一生が「社会的落伍者」として決められてしまうのは残念なことである。この点から一般人はもちろん医師、歯科医師に対して本症候群の認識をさらに高める必要がある。

本症候群は肥満を基礎にすることが多いので、減量やCPAP、BiPAPなど内科的治療を行うのが主流である。しかし、口腔、鼻腔、咽頭など上気道の疾患によることも非常に多く、歯科的、口腔外科的、耳鼻・咽喉科的な治療によって完全に治癒する症例が多い。したがって、症例によって治療法を適切に選択することが必須で、集学的治療を常に心がける必要がある。この講演では、本症候群の原因、病態、診断、治療などについて包括的に解説したい。

〔教育講演〕

『Sri Lankaの歯学教育について』

(1) JICA projectについて

国際協力事業・国際協力専門員（保険医療担当）

半田祐二郎先生

(2) Oral cancer in Sri Lanka-a broad perspective-

Peradeniya大学歯学部教授

Ranasinghe先生